第65回（R5．5）

巨星墜つ

8年前の晩秋、私はその人と向き合っていた。赤銅色に日焼けした顔に小さな目。その目が優しく私を見つめている。形どおりの挨拶が終わると、その人は初対面の私にいきなり迫った。「公民館長やってもらえんかね」。

表情は穏やかだが、言葉には匕首(あいくち)のような鋭い響がある。なるほど市議会議長まで務め、修羅場を潜ってきた人物だけのことはある。こいつは参ったな。答えを逡巡している私に向かって二の矢が放たれた。「お前さんの好きなようにやっていいけん」。公民館運営協議会の会長からそう言われては、もはや断る理由はなくなった。

4月18日、その人小山昭氏が90年の生涯を終えられた。川津に生まれ川津で育ち、市議会議員として川津の発展に貢献してこられた。朝酌川の改修と北部区画整理事業、松江東高の誘致などその功績は枚挙にいとまがない。

とりわけ昭和54年から公民館活動に参画、平成5年から18年間公民館長として、また平成24年から10年間、運営協議会の会長や顧問として地域活動を牽引してこられた。飾らないお人柄で、酒とカラオケをこよなく愛し「館長さん、こーまでよーけ飲んできたわ」と過去を懐かしむお姿が思い出される。

ご逝去された18日の夜、松江の街に稲妻が走り雷鳴が轟いた。天が小山さんの死を悼んでいるようにも思えたが、一足先に天国に赴いたかつての公民館の仲間たちが、小山さん歓迎の大宴会を催し、雲の上で「どんちゃん騒ぎ」をしているようにも思えた。

生涯を川津に捧げた小山昭さん安らかに　合掌